

帰島から10周年

島の将来考える好機に



東京MXテレビに出演する佐藤会長

全島避難指示解除から10年を迎えた三宅島。記念式典などが行われるとともに、マスコミで取り上げられる機会も増えている中、これを島の問題や将来を改めて考える好機とすることが重要だ。

三宅島噴火災害15年・帰島10周年を迎えた三宅島は、今年度を帰島10周年記念の年として様々な行事を展開している。その内、最大のイベントとして7月25日に「三宅村帰島10周年記念式典及び三宅村文化会館完成記念式典」が約80名の来賓を招き新しくリスタル☆ホールで開催された。

また、三宅高校生が「三宅村民憲章」を披露、島内外の16団体に感謝状を贈呈した。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒173-0005
東京都板橋区仲宿2-1
TEL 090-4922-0798
FAX 03-3964-4065
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

〇三宅島支援者の集い
ふるさとネットの皆さんと、美味しく食べ楽しく語りましょう！

【日時】
平成27年12月12日(土)
19時～21時

【場所】
隠れ庵 忍家 巣鴨駅前店
豊島区巣鴨2-5-2 都ビル4階
03-3940-6023

〇ご寄付のお願い
郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

【三宅島ふるさとネット事務局】
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿2-1
携帯：090-4922-0798
FAX：03-3964-4065
連絡先 佐藤就之

会長MXテレビに出演

東京都・三宅支庁も10周年記念行事として三宅島PR動画を都内各所で放映、都庁でパネル展を開催。

また、7月4日と11日11時30分から12時まで東京都提供で東京MXテレビ・東京クラウン「まるごと三宅島！まなぶ編・ふるさと編」2回を放映。自然・火山と海の美しさ、元氣な島民の姿を取材。佐藤会長も11日にスタジオでゲスト出演して「三宅島新報」などの活動を紹介し、在京者や島の人口問題など課題について述べた。

イベント・行事紹介

マリンスコール7月に



賑やかに行われたマリンスコール

組合
◎10月12日(月) 午前10時30分から午後1時
場所(坪田) 未定

◎11月15日(日) 午前10時から午後1時
場所(伊ヶ谷) コミュニティセンター

◎11月21日(土) 午前11時から午後1時
(阿古) 臨時庁舎駐車場

☆産業祭 21日(土)
場所・阿古 出品者募集中 ☎(5)0902 実行委員会まで

◎12月6日(日) 午前10時30分から午後1時
場所(阿古) 未定。

☆伊豆諸島ウォーク in 三宅島 島内巡り 12月5日(日) 定員300人募集中 ☎04904(5)0902 実行委員会まで

◎9月13日(日) 午前10時30分から午後1時
場所(神着) 七島信用

恒例の商工会主催の帰島10周年マリンスコール21フェスティバルが7月25・26日にふるさと体験ビレッジ駐車場で開催。島民、観光客も大いに楽しんだ。ふるさとネットも寄付し協力した。

島市おいでください

◎9月13日(日) 午前10時30分から午後1時
場所(神着) 七島信用

恒例の商工会主催の帰島10周年マリンスコール21フェスティバルが7月25・26日にふるさと体験ビレッジ駐車場で開催。島民、観光客も大いに楽しんだ。ふるさとネットも寄付し協力した。

会長時評

ふるさとネットの10年 支援に感謝!

復興への思い込め情報発信等を



定期的実施されているふるさとネットの世話人会

全島避難指示が解除された2005年の4月に発足したふるさとネットの活動も、今年で10年目を迎える。この10年、多くの方の支援をいただきながら、未帰島者も含めた島民への情報提供や支援、復興に向け多くの方に島の状況を伝えるための情報発信などの活動を進めてきた。今後も、この10年間の活動をさらなる島の発展に結びつける取り組みを進めていく。

(佐藤就之)

三宅島帰島10年に当たり、ふるさとネットワークの活動を振り返ってみたい。

2000年9月1日全島避難指示、指示解除(高濃度地区を除き)まで4年4ヶ月。前例のない長い避難生活。島民は、ボ

ランティアや行政に支えられ三宅島島民連絡会を結成して活動を行ってきた。

そして、2005年2月全島避難指示解除となった。私は、三宅島島民連絡会会長の重責を担ってい

た立場から、さまざまな情報と事情を知る立場にあった。

この避難解除についても、当時は「飲む半分、不安が半分であり、手放して飲むことはできない」とマスコミ等の取材に述べていた。

多数の帰れない人が

その理由は、帰島時には、火山ガスにより島内45%立ち入り禁止・制限地区があり、住宅損壊、事業所・産業基盤も大半が被害を受けて雇用の確保も困難、住宅再建経済的困難。火山ガスの健康被害について未経験のために子ども、高齢者、喘息などの高感受性者が「帰りたいけど帰れない」状態に置かれた。帰島前のアンケートでも全島民の40%が帰島を躊躇っている現状であった。実際に避難前の島民

05年4月にネット立ち上げ

島民連絡会は、結成のときに避難解除時に解散することを規約で定めてあった。そこで、帰島できない島民を置き去りにするわけにはいかないと「三宅島ふるさと再生ネットワーク」を新たに2005年4月1日に発足させた。

- 1、帰島できなかつた島民に情報提供、交流、要望事項の検討等の継続を考える。
- 2、三宅島島民の生活再建、再生のために何をすべきか考える。
- 3、三宅島噴火災害の実態と被災者島民の声を全国に発信するためにホームページ、通信、他団体との連携等の活動を考える。
- 4、以上の3点に賛同する三宅島島民、三宅島出身者・在京者と支援者に協力を求め被災者の生活再建と三宅島ふ

るさと再生に力を合わせる、となつている。翌年2006年1月1日に、三宅島新報第1号を伊勢原市の向上高校新聞委員会の卒業生によるDTPAが編集作業を担当してくれて発行、今日におよんでいる。

また大妻女子大学人間関係学部千川研究室が印刷とホームページ(WWW.wmiyakeifu.rusato.net/top.htm)の立ち上げをして頂いた。

向上高校山田校長、大妻女子大の千川教授等皆様の献身的な協力にあらためて感謝の意を表したい。

三宅島新報を媒体にして

2006年9月の三宅島新報の発行は3000部で、内訳は、三宅島島民帰島全世帯1600部、島内各新聞折り込み160部、在京者151部、三宅島出身者及びマスコミ・支援者199部、都庁記者クラブ30部、各行政防災課120部その他となつている。

長期災害の経験を福島に 島では次の噴火の備えと産業復興を

改正農協法の主な内容(日経8月29日より)

現在の役割	問題点	改正の内容
▼JA全中		
全国の地域農協の監査・指導	地域農協の創意工夫を妨げる	監査・指導権を廃止
▼JA全農		
農産品の集荷・販売など	経営が非効率	株式会社に転換可能に
▼地域農協		
農家に資材や肥料を独占販売	農家は割高な資材の購入を迫られる	農協以外からも購入可能に

三宅島にとってこの10年は、前例のない長期災害との戦いであった。帰島10周年を機に考えなければならないのは、三宅の経験を原発事故で長期避難が続いている福島にどのように生かすかということ。そして三宅に関しては、次の噴火への備えと産業の振興策である。

帰れない人への対応見直しを

帰島できない在京者の調査結果は、2006年8月には、総計221世帯、転居先不明は146世帯であった。1世帯2〜3名としても約半数。事務局の努力による。内都外は、山梨・神奈川等56世帯である。

この調査によりアンケートや行政に対する要望書を提出したりなどし

て、人工透析導入などを
実現させた。
当ネットも帰島10年を
迎えて、活動の見直しな
どを進めている。

特に、重視したいのは、
長期災害の復興・再生の
課題である。三宅島は、
人口減対策、産業面でも
避難前の約半数の回復率
であり回復の見通しは、
立っていない。

被災者の自助努力の限
界が見えている。官民が
長期災害の復興の方向性
を一体となつて取組まな
くは、出口が見えない。
この点では、東日本大震
災の課題、とりわけ福島
原発の長期避難と4年半
ぶりの避難解除との共通
点を明らかにすること。
復興・再生のあり方を共
に考える努力が必要では
ないだろうか。

9月5日政府は、福島
の一部を解除した。テレ
ビ、新聞が一斉に報道し
たが、帰還は3割程度で

三宅島の農業にも大きな影響が
予想される改正農協法。7月17
日には「JA東京島しょ三宅店
廃店に伴う説明会」が行われた

事業所再開、住宅建設が
進んでいない。放射能の
脅威は、三宅の火山ガス
の比ではない。
しかし4年半の長期避
難の共通点は、重視すべ
きであり国と地方自治の
救済・支援のあり方につ
いて抜本的に改善をする
努力が求められている。
三宅島も帰島10年を期
してこの問題を提起し発
信をすべくはならないだ
ろうか。

見えない農業の行く末

第二の課題は、次の噴
火災害にどう備えるかだ
ある。

第三は、雇用の確保、
人口増を達成するため
に、農業、漁業、観光業
などの振興であろう。三
宅支庁の26年度「管内概
要」を基に、三宅の農業
について考えてみたい。
昭和59年以降アンタバ
は、国内最大の栽培面積
を伸ばしたが、今回の噴
火によって深刻な影響を
受けた。作目転換も視野
に入れた営農再開の取り
組みが必要となっている
と、指摘している。他に

は、火山ガスに強い赤芽
イモ(サトイモ)、サツ
マイモの作付、ドラセナ、
キキョウランなどの切り
花、特産品としてパッ
ションフルーツ栽培にも
力を入れている。
しかし、ここにきて農
協の法律の改正により解
体・閉鎖の危機を迎えて
いる(図参照)。7月17日、
「JA東京島しょ三宅店
廃店に伴う説明会」が行
われた。来年1月23日閉
店の提案に対して多数の
組合員が再建に向けた議
論がなされた。

【参考資料】

- 島内最大の組織 農協
- 農家戸数 総数118
販売農家45(総数83)
- 自給的農家73 農協組
合員数 正会員440
人 准会員510人
合計950人
- 林業組合員数 84人
- 漁業協同組合数 正規
36人 准403人 計
439人
- 商工会員数 250人
(組織率82%)
- 観光協会正会員数104
人(27年)

お便り紹介

○暑中お見舞いありがとうございました。大変うれしく拝見いたしました。

皆さまお元気で過ごしの様で安堵いたしました。お送りいただいております三宅島新報で、佐藤さんのお元気な記事を読んで、なつかしく思い出しております。お二人とも八十歳になられたの、まだまだ若々しく働いておられ、益々のご活躍を祈念いたします。

私も退職して十四年目になりますが、昨年の十二月に母を亡くして、やっと責任を果たした様な気持ちで、今はほっとしております。

まだまだ猛暑が続くと思いますが、くれぐれもお体に気をつけて、ご自愛ください。

8月1日

(長野市 小河原さんから)

○いつも新報お送りいただき感謝です。三宅島への想いは今も強いので引き続き送付をお願いいたします。

(長嶋俊介鹿児島大学名誉教授)

魅力満載 京町さんの舞台

「無法松の一生」会長などが観劇

ふるさとネットの世話人として、自らも阪神淡路大震災で被災体験を持つ神戸と三宅を結びつける活動などをしてきた女優の京町(みやこ)さんが、「無法松の一生」の舞台に立っている。9月3日には、佐藤会長などが観劇を行うとともに、京町さんを激励した。

ふるさとネット世話人である女優の京町さんが出演している「無法松の一生」と夢コンサートに佐藤会長、酒井副会長、栗原事務局長などで参加した。

参加した公演は9月3日に大田区で行われたもので、「無法松の一生」は小林旭、浅丘ルリ子「ゴールデンコンビ」が大きな話題を呼んでいる作品。歌謡ショーも五月みどり、黒沢年雄など豪華出演者でたいへん盛り上がった。「無法松の一生」で京町さんは、芸者の役を演じ、その妖艶な演技で訪れた多くの観客を魅了していた。

なお、今後の公演日程は、10月20・21日が大宮ソニックシティ、11月5・6日が春日部市民文化会館、11月20・21日が江戸川区総合文化センターで、半年に渡る全国公演。皆さんもぜひ観劇してください。



公演ロビーで京町さんを囲んで記念撮影

編集後記

9月7日に行われた世話人会に参加させていたいただきました。島の観光産業が思うように復興していかないという話を聞き、豊かな自然があるのに、残念だと思

いました。一人でも多くの人に三宅の魅力を伝えてほしいと思います。また、支援者の集いも話題になりました。形勢がかわっても、また皆様に会いできることを楽しみにしています。(DTPA 森)

「三宅島支援者の集い」に参加を

日時 平成27年12月12日(土) 午後7時～9時
場所 隠れ菴 忍屋(巣鴨駅前店)

J R 山手線巣鴨駅下車 改札出口右ロータリー右奥2分 豊島区巣鴨2-5-2 都ビル4F ☎03-3940-6023)

会費 4000円

皆さまのご参加をお待ちしています。気楽に懇親会として交流が出来たらと望んでいます。

欠席者/出席者共に激励メッセージをお願いします。「三宅島新報」新年号に掲載させていただきます。よろしくお願ひします

ご寄付者名

皆様のご協力に心より感謝いたします。

- 阪本 健様、金子 智様、
- 牧田和雄様、土岐富士子様、
- 吉島輝雄様、長嶋俊介様、
- 吉野文雄様、吉田信行様、
- 菊池千春様、広瀬佐智子様、
- 室崎益輝様(関西学院大学、
- 神戸大学教授等を歴任、日本災害復興学会初代会長)

※6月14日から8月31日まで